事務事業マネージメントシート

真岡市行政評価システム 評価対象年度 平成27年度

作成日 平成28 年 04 月 22 日

事	<b>務事業名</b>	学校給食米粉パン導入支援事業								旦当			産業環境部	<b>農政課</b>	農政係		
-	<b>政策名</b>									話番号	0285 - 83 - 8137						
_	施策名  1 農業の振興							実施				事業					
-	基本事業名					\ <del></del> /   =	E 463			[	単年度の	<del>}</del>					
法	法令根拠 真岡市学校給食米粉パン導入支援事業費交付:					6交付3	<b>そ純</b> T	事業	<b>詳期間</b>	□ 単年度繰返(開始年度 平成21年度~)							
予	算科目	1.	1.一般会計 6.農林水産業費 1.農業					費 3.農業振興費			□ 期間限定複数年度( 年度~ 年度)						
<b>事</b>	業概要	め学校		小麦粉パン	ンの代わりに	米粉パンの導入		費拡大と食料自給率の   る。米粉パンは、小麦									
1.	現状把握の	部 (1	) <b>事</b> 務事業σ	の目的と	·指標												
1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標   ①手段(主な活動)								⑤活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) の推移									
27年度実績						名称				単位	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(見込)		
小麦粉パンと米粉パンの差額21円/1食を学校給食会へ交付する。 7,636人×21円×13回=2,084,628円						ア 交付金の額				千円	2,302	2,290	2,284	2,085	2,084		
28年度計画 27年度と同様							1										
							_										
							ゥ										
							ı										
							ļ										
						オ											
②対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等								指標(対象の大きさを	表す指標	)の推移							
	童・生徒		A.S.I					名称	20 7 11 15	, - , - , - ,	1		25 年度(実績)				
							イ	<b>皇・生徒数</b>			<i>.</i>	7,135	7,057	6,996	6,990	6,981	
						イ ウ ェ											
							オ				<del>+</del> \ 0.44	16					
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 児童・生徒に米粉パンの給食を提供する。							⑦成果指標(対象における意図された対象の程 名称						25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(見込)	
						ア 米粉パンを使用した給食数 イ				食	100,061	99,567	99,268	99,268	99,450		
						ウェ											
							オ							<u> </u>			
④ 結果 (どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 米消費の拡大と食料自給率の向上						8上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の 名称					24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(見込)		
					ア 一人当たりの米の消費量(米穀機構)				kg	57.8	53.6	54.7	53.0	53.0			
					イ ウ												
						オ											
(2) 総事業費の推移 単位 24年度(実							績) 25年度(実績)			26 5	年度(実	責)	27 年度(到	27年度(実績)		28 年度(見込)	
			国庫支出金 県支出金		千円 千円			0		0		0	0				
投入量	事業費		地方債		神			0	0		0		0			0	
	類   訳	その他 一般財源			千円 千円		2,302		2,290	2,284		2,085		2,084			
			事業費計(A) 千円				2,302				2,284		2,085		2,084		
	人		正規職員従事人数 人 人						1 50		1 50			1 50		1	
			人件費計(B) 千円			210 2,512			203 2,493		211 2,495		210 2,295		210 2,294		
(3)		トータルコスト(A)+(B)			2,512					2,495		2,295		2,234			
H-	の事務事業を		食料自給率	<u></u>				しており生産調整を余何	義なくされ	っているの	で、米	粉の消費量を	高め食料自給薬		 量の向上を図る	ため、	
いつ	きっかけは何 ごろどんな& されたのか。		学校給食にお	いて米粉	がバンの導入	を支援すること	とした。										
②事務事業を取り巻く 状況(対象者や根拠法																	
令等	)はどう変化	比して															
いは	か、開始時 5 年前と比	べてど															
う変	わったのか?	•															
③この事務事業に対し																	
	係者(住民、 対象者、利																
者等	)からどん <sup>†</sup> 望が寄せら <sup>‡</sup>	な意見															
るか		1000															

## 2. 1 次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 ①政策体系との整合性 ■結びついている ■ 見直し余地がある ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? 水稲の安定生産のため米粉の消費拡大を図ることは、市の施策に結びついている。 ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか? 目的妥当性評価 ■ 妥当である ②公共関与の妥当性 □ 見直し余地がある ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? 水稲の安定生産のため米粉の消費拡大を図るための公共関与は妥当である。 ・税金を投入して達成する目的か? ③対象と意図の妥当性 □ 適切である □ 対象を見直す必要がある ■ 意図を見直す必要がある ・対象を限定・追加すべきか? 将来の消費を担う児童生徒を対象に、米粉の消費拡大のため米粉パンのPRをすることは妥当である。 ・意図を限定・拡充すべきか? ④成果の向上余地 □ 向上余地はない □ 向上余地がある 限られた経費で必要最小減のPRを実施しているので、向上の余地はない。 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか? ⑤廃止・休止の成果への影響 ■ 影響がある■ 影響がない ・ 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は? 学校給食において不粉パンの使用を廃止したら、将来の消費を担う児童生徒に米粉パンを提供する機会が減少 ノ、米粉の消費が減退する可能性があるので廃止・休止はできない。 有効性評 ⑥類似事業との統合や連携の可能性 ■ 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) ■ 類似事業はない ・他に、類似の形態の事務事業はないか? 類似事業はない。 類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図る □ 他の事業と統合・連携ができる □ 他の事業と統合・連携できない ことができるか? ⑦事業費の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに事業費を削減できないか? 最小限の経費で、米粉パンの導入を支援しているので削減余地はない。 (仕様や工法の適正化、住民の協力など) 効率性評価 ⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 最小限の人件費であり削減余地はない。 ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど) 9 受益機会・費用負担の適正化余地 □ 公正・公平である □ 見直し余地がある 公平性評価 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? - 受益者負担を求める事業ではない。また、小麦粉パンとの価格差を補てんする事業であり、父兄は給食費として応分の負担をしているので公平・公正である。 ・受益者負担が公正・公平になっているか? 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 廃止 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性 □:公平性) □ 統合 □ 継続 コスト 維持 増加 削減 向上 成果 維持 (2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か?それをどう克服していくか? 低下 4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (1) 1次評価結果の客観性と出来具合 (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり コスト 維持 増加 削減 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 維持 成果 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大 □ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)